

# 山とスキー

第六十一號



札幌 山とスキーの會 發行

大正十二年七月廿七日第三種郵便物認可  
大正十五年五月二十八日印刷本

大正十五年六月一日發行（第一回）

次目號一十六第

記事

自然禮識

所謂「シーブント」に就て

スプリングラウフの研究

平地滑走のスピードに就て

海外消息

在チロール

柳 壯 一

麻 生 武 治

岡 村 源 太 郎

松 方 三 郎

麻 生 武 治

今 泉 剛 一

君 一 生

廣 田 生

〔二〕

〔六〕

〔一〇〕

〔一六〕

〔一八〕

〔一八〕

〔二〇〕

〔三二〕

〔三四〕

一九二六年の瑞西スキー選手権大會記録  
會とその仕事について

彙報抄録

スキー展覽會・新着圖書・紀念品に關して・北大スキー部紀念事業  
ゴシツフ

寫眞版

樹 氷

高 潮 (ルード君の飛躍振り)

シユミツド君

小 竹 實



樹 氷 (但馬國氷ノ山)

小 竹 實

## 自 然 禮 讚

吾人の性情を瞬刻に陶冶して酔乎として酔たる詩境に入らしむるものは自然である。

自然の徳は高く塵界を超越して、絶對の平等觀を無際限に樹立して居る。天下の群小を隠いて徒らにタイモンの憤りを招くよりは九畹に溢き、薰を百畦に植ゑて獨り其裏に起臨する方が遙かに得策である。世は公平と云ひ、無私と云ふ。左程大事なものならば、日に千人の小賊を戮して滿園の草化を彼等の屍に培養ふがよからう。

山の中へ來て自然の景物に接すれば見るものも聞くものも面白い。面白い丈で別段の苦しみも起らぬ。起るとすれば足が草臥れて旨いものが食べられぬ位の事だらう。然し苦しみのないのは何故だらう。只此景色を一幅の畫として觀、一卷の詩として讀むからである。畫であり、詩である以上は地面を貫つて開拓する氣にもならねば、鐵道をかけて一儲けする了見も起らぬ。只此景色が腹の足しにもならぬ月給の補ひにもならぬ。此景色が景色としてのみ心を樂しませつゝあるから苦勞も心配も伴はぬのだらう。自然の力は是に於て尊い。

— 草枕より —

## 所謂「シーブункト」(Schiefpunkt, Ski-point)に就て

柳 壯 一

スキー術の發達と其の流行はこの數年來著しいものであつて其の冬期スポーツとしての價値、興味に就ては何人も否むものなく今後これが實用に供せらるゝ事多きに至らば我が北海道の如き其の應用範圍極めて廣く、其の使用者も從つて増加するは疑を容れざる事實であるが、其の發達につれて多くの人の中にはこれによつて不覺の負傷等をなすはこれ亦止むを得ざる事である。余は自分の専門上この點に就ての興味を抱き二三の書籍を調べ、なほ自己の經驗治療せる症例を有して居るが、本文に於ては其の中に最も多く見られ、且つ熟練者と雖も往々これを免かれ能はずして、しかも一度犯さるゝや其治療に可なりの時日を要する所謂「シーブункト」の痛みに就て述べて見たいと思ふ。

「シーブункト」と云ふ名はドイツあたりでは學生などの慣用語で、「スキー」をかく人が時として大腿下部の内側に壓痛を覺える點の名稱である。それは大腿下部内側にある多くの筋肉附着點、靱帶、或は膝關節周圍の靱帶又は關節囊の一部分の挫傷であるとせられてすでにベルンハルト、デルク、フォンフリツシュ氏等によつて記述せられて居る。

余も札幌に於てすでに數例の本症を経験してその成因如何を調べて見たが、讀者諸君の大多數は醫師でないためにこれを分り易く説明する事は容易でない。故にこゝでは通俗的に六つかしい醫學上の術語等を省いてなるべく簡單に説明して見やうと思ふ。

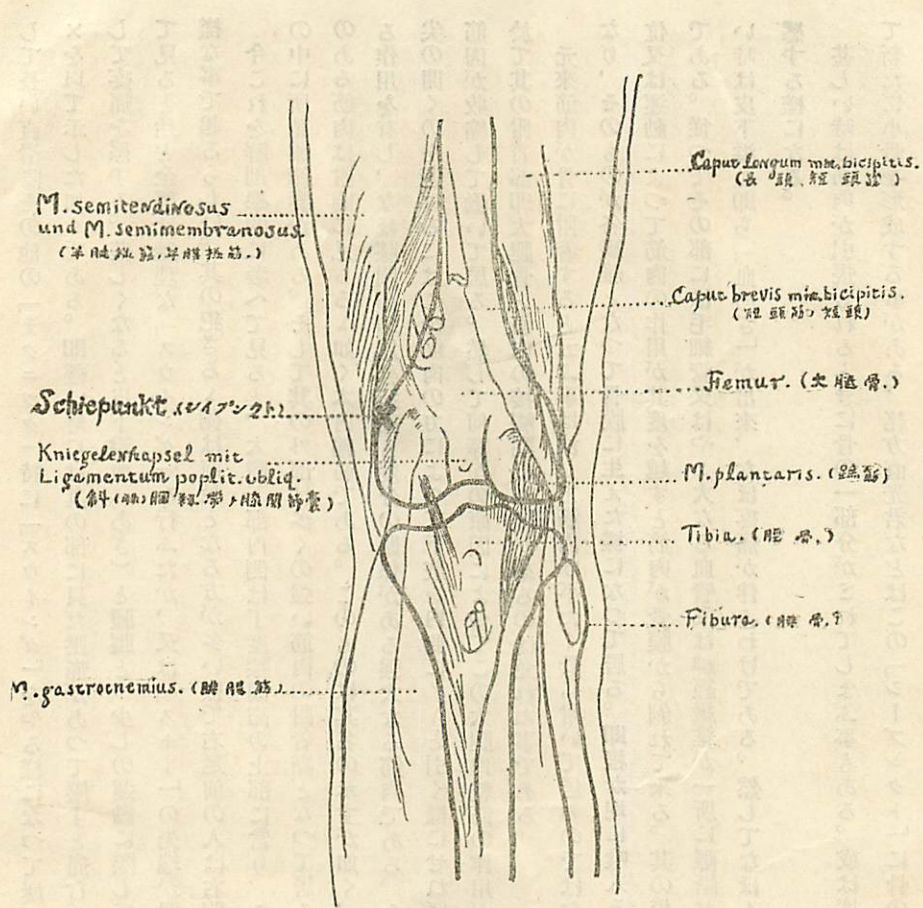
「スキー」をばいて運動を初めるに、其の極めて初期にはこの「シーブункト」を侵される事が少ない様で、やゝ熟達

して長い直滑降その他の「テクニク」特に「スウィング」をやる様になつて屢々やられる様である。其の部位は附圖に×を以て示した如くである。即輕い時には其の部に只だ壓痛があつて壓すと痛む。少しひどくなると該部は膝の屈伸に際して疼痛を感じる。甚しくなると皮下溢血(あざ)と腫脹と、少しの運動に際しても疼痛を訴へる様になる。原因を聞いて見ると殆ど全部は無理な「スウィング」を行ふたか、又は「スキー」の先端が開かんとしたのを無理に閉ぢた、と云ふ様な事起るらしい。其の犯さるゝ側は前足となる方が多い様で右足前の人は右側、左足前の人は左側が多くやられる。

今これを解剖學的に考へて見ると、大腿下部内側は丁度膝關節の上部に當り、こゝには膝關節を保護する強い靱帶とそれの中に所謂關節囊がある。そして其の外部は多くの強い筋肉の附着點となつて居る。その中この「シーブメント」に關係のある筋肉は附圖に見らるゝ如く大内輪筋である。このものは其名の示すが如く、大腿、從つて下肢全部を内側に引付ける作用を有し、なほ膝關節の屈伸運動も幾分の關係がある強大なる筋肉である。今スキー滑走中やゝもすれば起り易い足先の開くの避けるにはこの筋肉の力によつて下肢を内側にくゞと引く様にせねばならぬから、スキー滑走中は常にこの筋肉が收縮して働いて居る。然して何等かの原因によつてこの大腿内輪筋の作用が強く、なほ其の限度を越えるところにて其の附着部即大腿骨と筋肉の接觸點に破綻が來るのは免れぬ事である。

元來筋肉が骨に附着すると云ふ事は決して筋肉が平たく骨に附いて居るのではなくして、筋肉の先端が臆の様なものになり、そのものが各纖維となつて骨膜に生えた様になつて居る。即根が地に喰入る様なものである。だからもし無理な体位又は運動によつて筋肉の作用が其度を越すと筋肉が骨膜から剝れて來る。其の模様は恰も木の根を引抜いた様になるのである。従つてその部には毛細管又はやゝ大なる血管或は神經纖維が一所に離断せられて、そこに出血従つて腫脹、甚しい時は皮下溢血即ち「血あざ」が出來、なほ疼痛が伴ふわけである。然してなほも内輪筋を使はうとするとやはり疼痛を感じる様になる。

甚しい時は筋肉が引張られるときに骨の一部分がこれてしまふ事もある。或は度々捻挫せられた部分に化骨作用と稱して新たに小骨を形成する事がある。緒方直光君などはこの「シーブメント」に骨の新生があるのを「レントゲン」線寫眞



右膝の后方より見たる図。

で證明する事が出来る。  
 かくの加きものを吾人は  
 捻挫と稱して居るが、其の  
 病理解剖學的解釋が前述の  
 如くであるのを考へると、  
 その治療に時を要するもの  
 であらう事は想像に難くな  
 い。即ち引抜かれた部分が  
 再び元の様な位置になる迄  
 は直らないわけである。も  
 しこれを我慢して無理に使  
 用すれば追々なほひどくな  
 るか、もしくはたとへほど  
 くならずとも恐らく可なり  
 の長時日を費しても治療す  
 る事が出来ない。だからも  
 し一旦かゝる部分をやられ  
 たならば必ずある期間はス  
 キーをはく事を休まねばな  
 らない。体の他の部分なら

まだよいがこの「シーブメント」はスキー滑走を行ふに最も大切な筋肉の附着點に一致するものである事を考へれば恐らく直ちに了解し得らるゝ事と思ふ。余は再三其理由を示して置いたに拘らず直らぬ中にスキーをはいて可なり長時日苦しんだ人を知つて居る。

故にかゝる場合に於ての唯一の療法は局部の安靜あるのみである。其他濕布は出血及腫脹の吸収を促進し、塗布劑は鎮痛其他の作用があるが何れも補助に過ぎない。安靜によつて損じたる部分の元の通りになるのを待つより他仕方がない。藥を塗つてあるから、濕布をして居るから足を使つてもよいと云ふのは素人考へで困つたものである。

其他この「シーブメント」の近くにも似た様な疼痛を生ずる事があるが成因としては同じであつて、只筋肉の作用がら  
がふだけである。

余は一昨年來多くのかゝる症狀を呈する人を見、しかも其治癒に可なりの時間を費すの止むを得ざるため、そのシーズン中の活動が障害さるゝを知つて、どうにかして膝關節部の一種の「サポーター」の如き保護器械を案出しようと時々考へて見るが時を有せぬのこ、中々六つけしい爲にまだ完成する事が出来ないで残念に思つて居る。諸君の中で熱心な方がお考へ下さつて其れを御示し下さらば、いつでも御相談に乗りたいと思つて居る。

なほスキーによる傷害は色々あつて成書に記載せらるゝものが少なくないがそれは他日に譲る事にして、最後に「スキー」による捻挫特に種々の關節例へば膝、又は足關節の挫きが原因になつて恐ろしい關節結核を惹起する事が少なくなく、余も亦札幌へ來て二シーズンに數名を見、その中にはついに大腿部より切斷するの止むを得ざるに至つた實例ある事を告げて、諸氏の自重と、もしもかくの如き場合は迷ふ事なく専門家の治療をうけられん事を切望する次第である。

(大正一五、五、二二)



# スプリングラウフの研究

在チロル 麻生武治

世にスポーツと稱はるゝものゝ數は多いが、スキースポーツ程清淨な大自然の中に圓滿なる肉体の發達と大膽にして細心なる精神の修養となるものはあるまい。

各自が好み適するを撰んで氷雪の峯に冬季登山を企つるもよし、白銀の曠野タンネ、フヒテエの森を縫つてストックテクニツクの粹を味ふも可なり。

然りと雖も豪膽と優美の極致に觸れるスプリングラウフの男性的なるに到りては到底他の追従を許さぬものがある。宜なる哉之を名づくるに“Krone des Schisports”（スキースポーツの王冠）とは。

## 技 術

### アブローチ

アブローチの姿勢はシャンツエの構造によつて多少異なる

が要は充分力強い踏切りが出来るやうな準備滑降をするこ  
とである。直滑降の時の *hockes* で膝は上肢と下肢の角度を  
直角に曲げそれ以上の角度では重心が兎角後へ残りがちに  
なる。上体は前にかがめ両手の位置については殆ど各人の  
個性による。アブローチ中一番大切なことは兩膝をかたく  
さぢること、精神を次の瞬間に来る電光石火の踏切りに集  
中することでシャンツエの端が近づくに従つて踵を浮かさ  
ぬ程度になるべくつま先の方に体重をかける。といつても  
其爲に折角のアブローチの速度を制動する様ではいけな  
い。扱スキ一の尖端がシャンツエの端に達した瞬間が最も  
大切である其の時を逸せず力強い踏切りが行はれるのだ。

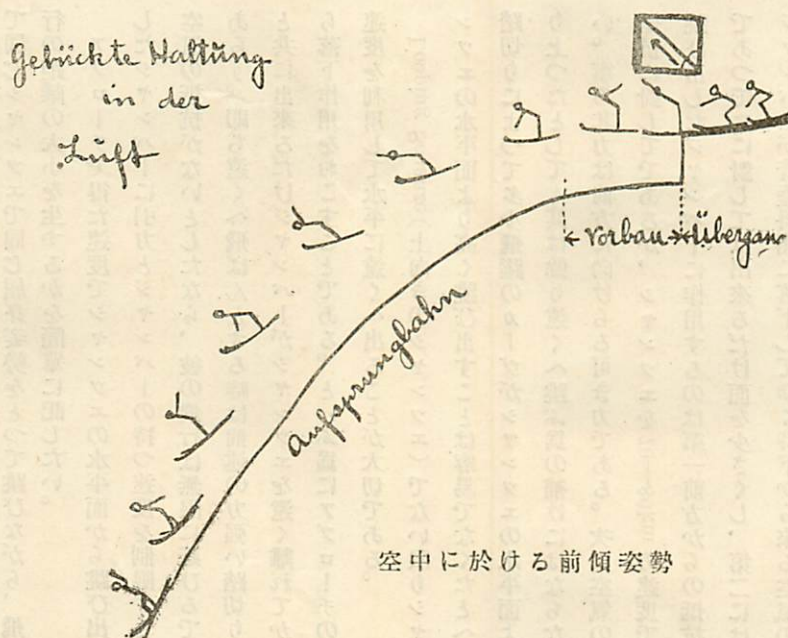
## 踏 切 り

Sprunglaufの運命を決するものは踏切りだといつても過言ではない。スキ一の尖端がシャンツエの端まで来たと思ふ時電光の如き速さで両腕を力強く振り出し胸をつき出し膝は勿論伸ばしつま先は思ひ切り力強く踏切る。それは恰も陸上競技の立幅飛の時の様に……踏切りは其の時期を逸しないといふことが一番大切である。脚底がシャンツエの端をはなれる時に全身が伸びきる爲めにスキ一の尖端が端に達した時に踏切つて丁度いゝのである。早すぎればジャンプの距離が縮まるし、遅れれば倒れる率が増す。踏切りはSpringlaufに最も欠くべからざる所の上体を充分前につき出すVorlage(前傾姿勢)を得ることである理想的なVorlageはシャンツエの水平面から50°の方向に上体をつき出すのが一番遠くへ跳べるVorlageである。

### 空中に於ける姿勢

踏切りで充分伸びた全身はそのまゝ飛行を続け所謂Vorlageは着陸斜面に應じてコントロールされべきものである。(着陸斜面の雪質も考へに入れて)

理想的のスキー保持は着陸斜面に平行なる位置に保つことであるが其は容易でない。尖端を下方に向けすぎれば危



空中に於ける前傾姿勢

險な轉倒を引き起す。姿勢とともによいスキー保持をもつことも *Prüfung* に欠く可からざるものである。練習の數を重ねるに従つて跳んでゐる自身でスキーの保持には氣付くものである。兩膝をしめてゐることは姿勢に大いに影響ある。飛行中は徐々に *Vorlage* をまして飛行の終り即着陸の直前におよそ自分はどの邊に着陸するか見當がつく、安定な着陸をなす爲にあらかじめ用意することが大切である。即着陸斜面が急傾斜ならそれだけ *Vorlage* が必要であるが着陸の直前には多少減じなければいけない。

獨逸、埃太利、チエコスロバカイ、瑞西のジャンパーにも最後に腰を屈するスタイルで跳ぶ人々を見たが其の代表的なのは有名な *Tullin Thoms* である。

兩腕の運動については本能的に會得するものであつてあの早い速度で空中にある時ジャンパーは殆ど兩腕を撓ぐることに意識してはゐまい。唯ジャンツエを離れるとき力強く前方に振出して大きく後方へ圓を畫くことは *Vorlage* の助けになるし *Vorlage*。其の者もこの兩腕の運動によつて加減される。兩腕を後方へ垂れてまはさないジャンパーもないではないが体重の平均をとることも難しいし餘り見受けないスタイルである。

着陸に就いて述べる前にスタイルに次で大切な如何にして同じジャンツエで同じ屈身姿勢をとつて跳びながら、飛行の距離の大小を生ずるかを簡單に記したい。

アプローチで得た速度でジャンツエの水平面から跳び出したジャンパーに引力とジャンパーの持つ速度を制限する空氣の抵抗がないとしたなら、彼の飛行は無限に延びるであらう。即ち遠くへ飛ばんとする時は前述の力強い踏切りと共に出来るだけジャンパーがジャンツエを遠く離れてから落下作用をおこすことである。といふ爲にアプローチの速度を利用して水平に遠くへ出ることが大切である。

*Looping Stelanz* (上向きジャンツエ) でない限りジャンツエの水平面より高く跳び出すことは容易でなくたとへ踏切りによつて多少飛躍のカーヴがジャンツエの水平面より上つたとしても其は餘り遠くへ跳ぶ爲の補けにはならない。寧ろ其力は前方に向けらる可き力である。次に空氣の抵抗に對してであるが、ジャンツエを *Top-sinken* の速度で跳び出したジャンパーに作用するのは第一前方からの抵抗であつて之に對しては出来るだけ面を少さくし、第二にはジャンパーが着陸斜面に落下してゆく時下から來る空氣の抵抗である。 *Vorlage* の必要なことは前述の如く、着陸斜

き平均八分を要し降りには三分弱の一籽平均速度を有して居るらしい。従つて登降斜面二籽をバツスするには十一分強を要し、平地は登降平均スピードよりもつと早い五分以内のタイムを有して居る。それで平地及び登降の三斜面の同様に含まれて居る三分の一システムのコースでは、前三者の平均タイムなる約五分二〇秒の平均スピードで全コースを走れる事になる。

若し平地の含まれて居る割合が三分の一以上になる時は平地は他の二斜面の平均スピードより早く走れるのであるから、そのコースのスピードは三分の一システムコースより良好なタイムで現はれて来る。スウェーデンの平地の多いコースの記録がノールウエルに於ける世界選手記録よりも上位にある理由も、恐らく平地滑走のスピードは上述の如くに影響して居る爲であらう。同様な雪質地形のコースで、平地が全コースの三分の一か二分の一かによつて、二十籽では約三分弱、五十籽では五分以上のタイムの差が現はれる。之に又、より平地に適するスキーを使用する事等によつて一層平地多いコースが立派な記録を出すに至るものと思はれる。

要するに平地滑走は上述の如く、デイスタンスレースに於ては重要な地位を占め、そのスピードはレースタイムの向上に對して可成重大な意義を有して居るそれに私の貧弱な平地練習の成績を厚がましく載せた。此の際何か平地滑走に關する記録を有する人々の御報告を切に希望し、互に平地スピードの研究、向上に資せられん事を願ふ次第である。(二六・五・一七)

### Signord Rund の記録

ルード選手はノールウエー Kousberg の選手で未だ十八才の少年ジャムバアです。今年のホルメンコーレンの大會で少年組の競技に出場して、同じ仲間の Erling Amundsen と共に優勝し、Fjugberg の District Competition で七〇米五〇釐を飛んで世界最長不倒の記録を作りました。その飛躍振りは一昨年シャムニイで二等になつたボンナ選手の型そつくりだ相です。恐らくこの記録は世界のジャムプ競技會に於ける最長不倒記録の最高記録でせう。(廣)

## 海外消息

### ○松方三郎氏よりの便り

此冬も何回も大へん痛快なお便りを頂きました、少々公表を遠慮せねばならぬ様なこともありましたが、控へたこともありましたが、最近次の様なお便りがありました個人に關した點は編者が適當に拾捨した部分があります。其點はお互に御了承下さい。

吉例によりスويس大會見物

細いことは書きたいのが山々、何を申しても *Yes*、より新雪の中三六キロを *Zermatt* にこぎつけたばかりの所で甚だ多忙、おまけに明日は疑ひもない上天氣では、何ミして冬のマツタアホルンを拜みに義理にも上の方へ登らねばなりません。(三月二〇日)

*Zermatt* に來て以來山登り専門、四つの *Vierfaldender* に

登つたと云へばえら相ですが、冬の山の事故、夏は天氣さへよければ御茶の子か。たゞ高いばかりで技術としては甚だ容易な奴であります。でもスキーで登るとなかく味があります。 *Schifahren* の味も始めて知りました。要するに *Zermatt* で *Monte Rosa* と他一つ、 *Saas* で二つ。とどのつまりが脱線して峠越しにイタリアに出ました。大分大鳥の影響を受けた傾があります。

そして附録に *Chamonie* に *Thams* 活躍の遺跡を訪れ一昨夜ロンドンに歸りました。スキー大會の記事はもう書きますまい。それに均さんが本場の奴を書かれるでせうから出來たら他のものを書きます。御元氣を祈ります。

タツタ一つの雲もない日に私達は *Zermatt* から荷物を擔いで *Belungs Hütte* (ベタン) に行つたんです。夏なら途中で電車、併し苦しくつてもスキーで登つた方がどんなに良い事かと思ひ乍ら、晝頃 *Gomergrib* の下をへすつて二

昨すぎこの小屋についたのです。早速猿又一つになつて日向ボツコ。全く暖いんです。あした登らうと云ふ Monte Rosa は見えないけれど、Lyskamm から Matterhorn まで Gneissar をへだてて手に取る様に見える。そして夏と異つて山も一層美しければ静かでもある。では Hütte から David Herens, Matterhorn を見た所なんです。(寫眞は雑誌の都合で銅版にされませんでした。代りに表紙の圖案にさせて頂きました。(編者) (三月三十一日)

次に紹介状と或人のことについての書信がありますから續いて御紹介します。(編者)

紹介状一つ。私の友達、山の合棒、スキーの合棒、麻生武治君を紹介します。スキーは問題なしにうまい。十二月から一月まで Schneider の膝下は Arlberg に行つたのに Monte Rosa から歸つて分れたら、又々 Arlberg に行つてやつてるんです。紹介の要は Arlberg であつたドイツの大會の記事を書きたいと云ふんです。私は大いに賛成して山ミスキーの番地を致へました。何しろ Teibesbüding が専門なんだから大びらに一學期 Arlberg に暮した譯なんだけれども、こにかく正月から Spungg も本式に習つてるんです。此間 Spungg Ski を買ったから、近頃は本物になつて

と思ひます。冬の Davos の Kanton Graubündler の大會には Kloster から Langlauf 選手で出ました。來年は Langlauf Spungg と兩方に出る意氣込なんだらうと思ひます。私の山の仲間、スキーの仲間、さうして Berlin に於ける均さん聞さんの Wanderng. 仲間、麻生武治君、通稱武さんの紹介了り。

次に、自稱有名なる日本の一流運動家某氏に關することども。

某氏についてはこちらで御忠告しやうかと思ひました。なか／＼こちらで偉い惻巧なこゝをして行きました。其お話を致しませふか。外國でウルストやローストビーフを喰べすぎて中毒にかゝつた性かどうも私の腹の蟲が近頃湧いて困ります。決して僕の本性ではありません。

「Ich esse Strassel, 仙人や魔物ぢやあるまいし、アスファルトの道路が食へるものですか、眞面目に考へちやいけません。「イヤ何、袋に入れてくれなくともいゝよ、どうせ道々歩きながらたべるんだから」てッな所を某氏式に簡單に云ふとかうなるんです。

又、通譯つきで試験が受けられぬかと學校に交渉したと云ふ痛快な有名な話もあります。私立の Hochschule のくせ

に——、日本人は官立といふと一づに感心するもんで、之は官立の學校でなくく入るのが難しいなんかと日本人の遊び歩きの留學生や、中老仲間を大いに辯じつくして歩く所なんか、誠に某氏式ですよ。スキートの *Kiss* に行つて来たと云ふので「君は何んな *Binding* を買つてるのか」つて聞いたら「*Binding* つて一体何だ」ミ聞き返したと云ふから *Spring* はおろか、何だつて大したことはない。ある *Sport Verein* に入つたと云ふ話で「君の所の *Verein* は何人會員が居るか」つて聞いたたら「さうさね、僕が 1925 人目だから今頃は多分二〇〇〇人くらえだらうね」と自分の會員證を見せた相です。見せられた奴は感心して *Marie* を眺めたら、何のこつた 1925 とは年號であつたとか。まあ、*München* に居る内村さんにでも聞いたたらあんな病氣があるかも知れません。(下略)

是は決して人身攻撃と思はれては甚だ迷惑です。近頃猫も杓子も外國へ外國へと涉つて、歸つて來て偉ら相なことを云ふて吹きまくる人にとつて好涼味劑と思つて、眞夏に向ふ今の時節の好下熱劑かと思つて、よくく味ははれんことを望みます。又そして堅いものを讀んだり深く考へ込んだりして神經衰弱になりかけて居る人達の *Medikamente* として下す。

(編者)

## ○麻生武治氏よりの通信

早大出身の山岳家であり運動家である麻生氏から次の様な御通信を頂きました。氏は目下アチラで大へん熱心にスキーを練習したり、山登りをしたりして居らるゝとのことです。

(Geehrter Herr)

Prof. Kiharu, Sabu, Matsukata からお話は聞いて居りました。山とスキーといふ有意義な會のあることを知つて及ばずながら自分が見たり聞いたりしたことを下手くそながらまとめて見ました。題にて「*Spunglauf*」五月に *Schneider* 氏の *Alpinen Ski Kursus* があります。其をすませて *Berlin* に歸ります。

同好の士の健康を祈りて。 *Sti. Heil! Berg Heil!*

(四月十九日)

## ○今泉剛一氏のお便り

拜呈 その後は御無沙汰致しました。ノールウエーの旅から歸つて來るとすぐ病氣になりをして一時は入院せねば

ならぬ程になりましたが、その後漸く全快先般から當地へ来て居ります。

本日は快晴、流石の芬蘭も春らしくなりました。今日は午後一時からジャムプの競技があります。昨日は 30km 今朝は 60km のデイスタンスレースがありました。此競技會が本年最後のものだらうと思ひます。全日本大會の有様はアサヒスポーツ誌上で精しく知る事を得まして非常に嬉しく感じました。五月三日から二ヶ月の豫定でスキー工場へ入り其後は英國へ行つてそうして明年二月イタリーで開催される、國際スキーランナの會議に遊びに行つて見たいと思ふて居ります。

四月廿六日に競技の出来る芬蘭は全くメグラタ所であらうと思ひます。昨日、今日の競技會は本年最後のものですから一流のスキーマンは皆集つて居ります。長距離のライビヨ、ネコ、ラツバライネン等。

30km はネコが優勝しました。コースは相變らず芬蘭式のコースであります。ラハテよりは幾分スロープが多い様に思はれました。(四月廿六日朝在フィンランド)

## 日本でも

四月の末にスキー競技會のやれるフィンランドは羨しい。五月にスキー講習會とは是もなか／＼奮つて居る。が然し日本でも熱と力とさへあれば是位の眞似は出来ないこともない。平地とか低い處ではかりスキー競技だの、スキー講習會だのを聞いて、却て利用し發達させて終つたからいけない。千米でも二千米でも登つてそこで雪陵を使用したり、山腹を縫ふたりしてやれば日本でも五月や六月の時期に、スキーテクニクの活用が出来ぬものでもない。

もつとスキーを高き地點で活用し、贅澤さへ云つて居らなければ、外國の風を徒らに羨む必要もなからう。要するに、スキーを穿く人の熱と力がもつと望ましいものである。

スポーツに熱心な連中が出て來たら、或は將來五月頃日本アルプスや北海道、東北地方の高山に入り込んでジャムプをしたり走つたりするかも知れない。それも十年後の話にならうか。(君生)



## 1926年瑞西スキー選手権大會記録

君 一 生

これは大陸のスキー界の焦點になつて居るとも云はれて居る程に盛んな瑞西國の Wengen といふ處で開かれた第二十回全瑞西スキー選手権大會記録の一部であります。競技會は 1926 年 2 月 13 日と 14 日兩日にわたつて行はれました。Programm は次の如くであります。

13/II (土) 9.a.m. Senior 18km. Start; Kleinescheidegg (Ca. 2064m.)  
Goal; Wengen. (Ca. 1300m.)

Junior 9km. " "

14/II (日) 7.30a.m. Militarypatrolrace 24km.

1.45p.m. Jump for Senior and Junior.

Results:—

Senior (18km.)	時 分 秒	分 秒	Junior (9km.)
1. Rubi Adorf.	1 12 11	28 07	Euuz Ernst
2. Endler Kurt.	1 12 59	28 19	Gertsch Edi
3. Schmid Sepp.	1 13 22	28 28	Julen Elias
4. Colli Enrico.	1 15 04	28 29	Tryzna Josef
5. Julen Alphons.	1 15 16	28 33	Disch Martin
Wuillieumier Gerard. *1	29 54	* 51 37	Schmid Hans

18km. の方のコースは Junior のコースに始め入らずに 9km 他のコースを走つて後クライネシャイデツクに戻り、そして Junior のコースに入るのです。

Combined Race の方は 18km. の Longdistance に Jump が加はつて居ります。

Classification で Senior は 3 Classes になつて居り、此處の記録はその内の 1st. Class の成績です。\*印は最長時間を示します。

Jump. (Senior 1. Class)

	Mark	Jumplength (m.)		
1. Schmid Sepp	17.888	45	52	53 (複合)
2. Willeu rmer Gerard	17.583	44	53	56
3. Rubi Adolf	17.111	44	49	55
4. Koch Florian	16.697	43	50	48
5. Brawand Samüel	16.388	45	47	49
* Klopfenstein Emil	8.444	35	46	44

Junior.

1. Meisser Christian	16.888	41	49	44
2. Feuz Ernst	16.416	31	52	48
3. Steuri Fritz	16.222	37	46	45
4. Bernasconi Lüigi	15,638	34	36	38
5. Nidegger Rene	15.360	33	39	39
* Schlurmpf Karl	14.027	28	39	38

大會の結果瑞西に於ける所謂 “1926, Skimeisterschaft,, を Schmid Sepp, が (Adelboden.) mark, 18.694 で獲得したことになります。これは S. S. V. の會長及び秘書官の名に於て公表されるものであります。

## 會とその仕事について

廣 田 生

私共の會、それは大方の御存じの如く五年前に生れてきて五十三名の會員を持つて今日に及んで居ります。

會の組織についていろいろ各方面で種々御考慮して下さい方もありませんが、何しろ學生のやつて居ります仕事として私共には今如何ともする能がございません。たゞ私共は此會の本質である雜誌を「正しく育てゝ行くこと」に努力する外になからうと存じて居ります。

「山とそしてスキーの事」に關して出来るだけ意義ある雜誌にしたいと思つて居ります。會の組織とか方針の轉換は時の趨勢に順ぜしむるより仕方なからうと思つて居ります。たゞ私は過ぎ去つた日のことに想ひを致して時々考へさせらるゝことがあります。

創設時代の有様、人と仕事、誌面と内容、會と會計狀態

會とそして對外關係と云つた様なことゝ、是に時代的の變遷を結びつけて考へる時、たとへ私自身が會務といふことに對して當事者的立場になかつたとしても、赤裸様に會の種々の事情を見せつけられて居て、悠々と傍觀的に過ごして居れませんでした。

創立時代の人達の苦心と努力、繼承者達の犠牲的態度、そしてわざ／＼私共の爲に多大の後援を尊い指導とを寄せられ、そして、今も引續き寄せられて居る多くの會員外の方々の熱誠、皆一つとして私共の會の堅い礎の礎となり支へとなつて居るものであります。會はさうして成長して來ました。

時が來れば壯なる力も衰へて行くでせふ。榮古盛衰は万象のもつ通性であります。然し私共はその壯なる力、



高 潮 (ロード君の飛躍振り)

面は安定な着陸をする爲と同時に前方からの空氣の抵抗を出来るだけ避け、下方からの抵抗は之を利用して落下を防ぐの利益がある。之等に對しては *Thams* のスタイルは大なる利益のあることを記しておく。

## 着 陸

着陸は正確に弾力性を以てなされねばならぬ。体重は兩脚に平均してかけ、出来るだけ兩脚は左右に開かぬ様に。

ランディングの直前に軽くまげられた膝はランディングと共に直に片方が前に出されて膝を屈する。然し踏み出すといつても精々靴一つか二つの長さであつてテレマークの時のやうに大きく踏張るのではない。尤も雪の状態が悪かつたなら踏出す一步を少しく大きくすることによつて顛倒を防ぐ。要するに着陸はジャンパー各自の *Vorlage* と着陸斜面の傾斜と雪の性質によつて異なることは勿論である。

兩腕を左右に伸ばして平均をとり成可く高い位置に保つて地表に觸れることを避ける立派なジャンプをした人でも手先が雪にふれて其のジャンプが轉倒とされるのが澤山あるから小さなことであるがお互に氣を付けやう。

## 圈 外

ジャンパーは正確な安定な着陸が出来たなら直に姿勢のいゝ直滑降で圏外に入る。止まるスウィングは各自隨意であるが急激な速度をもつてゐるのであるし何處の競技會でも圏外は多く平坦である故にクリスチャニアスウィングでとまるのが良い。圏外に入つてからの轉倒は地形が悪いとか雪質が悪いとか役員が認めぬ限り一一點の點數をたへジャンプは立派でも減ぜられることを免れない。

以上で *Springlauf* の大体を記した積りであるが、初心である自分に多くの助言を與へられた *Hannes Schneider* 手解きをしてくれた *Grinderwald* の *Brawand* 兩氏、遠い國から來た私の爲に實地に數々の注意と指導とを惜まなかつた *Innsbruck* の *Akademischer Alpen Klub* の *Hörtinger* 氏に心からの謝意を我國に於ける山岳とスキーの最高機關である此の誌上に發表するを許し給へ。

# 平地滑走のスピードに就いて

― 筆者の練習経験 ―

岡 村 源 太 郎

デイスタンスレースのコースは現在國際的に三分の一システムが採用せられ、日本のスキー界も大抵之に準じてコースが選擇せられて居る。従つて全コース中に平地が三分の一だけ含まれるといふのが一般の標準である。之は又競技者側から觀れば平地のテクニク或はスピードは三分の一の重要さを有して居る事を意味する。然し此の他に登り或は降りと稱せられて居る斜面で、平地滑走のテクニクに準じて對應すべき斜面が少くない。各競技地のコースによつて異なる事であらうが、純粹の平地と謂ふべき所以外に所謂登りに屬する平地又は降りに屬する平地を登り或は降り斜面と考へるならば、平地テクニクの應用範圍は三分の一のみに止まらず殆ど二分の一近く或はそれ以上の重要さを有して居ると考へる事が出来る。

即ち此の私の考へが相當に根據をおくに足るものであるとしたならば、デイスタンスレースに於けるテクニク或は實力は平地滑走の力がその半ば近くを占めて居る事が明かであらう。而も此の事は日本に於ても從來のスキー競技會の成績より推して略ほ誤り無きを信ぜしむるものである。そして平地滑走の早いランナーは大抵三分の一システムのデイスタンスレースにも好成績を示して居るのである。札幌近郊では古くより殆ど平地専門のレースが行はれて來たけれども、その平地滑走競走に強い選手はやはり普通のデイスタンスレースの強者である。昨年及び今年の十軒の勝者として知られて居る松田君及び今井、片桐の諸君は皆札幌驛傳競走に於て平地區間のレーコードメーカーとして奮闘した人々である。又之に似たやうな結果は樺太の大泊豊

原間、北陸の田口高田間の驛傳競走にもそのコースが平地を多く含むで居た事より證明せられて居るやうに聞いて居る即ち大體に於て三分の一システムのコースに強いランナーは平地滑走の技倆並びに實力が他に抜んで居る。之はつまり各人の平地滑走のスピードは、そのランナーの三分の一システムに於けるコースのスピードの比較に對して規定となるものであると考へてよいと思ふ。

之の平地スピードとデイスタンスレースのスピードとの關係は日本スキー家では前述のやうであるが、之は更に外國選手にも當てはめて行ける問題であらうか。之は從來の外國の記録又は各地競技に活躍した選手の成績より推して我々の場合程には工合よく平地のスピードと三斜面の平均スピードとが平行して居ないかも知れない。然し今歐洲ランナーと我國ランナーとの實力の相違が平地滑走のスピードに現はれる程度のものであつたり、又は平地スピードの次第に進歩するにつれて三斜面に於ける全スピードも平地スピードの進展に比例して進歩して行く事は、相當の確信を以て認め得られる事であらうと思ふ。今年のホルメンコーレンの五十軒レースでも、全コースを抜群の成績で優勝したキエルボトンや、ヘツゲは、コースの各區間に於ける

平地及び降り斜面の多い斜面で、やはり他の追従を許さぬスピードを示して居た。即ち彼等少くとも入選圏内に入り得た選手は、登り降りに強いと同様に又平地でも凄いスピードを有して居る事が想像せられる。

要するに平地滑走のスピードは略ぼ三分の一システムのコースのスピードの標準になり得るものである。それで平地のスピードの優劣を調べる事は、或程度までデイスタンスレースコースのスピードの優劣を示す事になる。幾分の例外は逃れまいが。

デイスタンスレースの記録はコースに依つて非常に變り易いものであつて、同一ランナーでもコースの難易により一割乃至二割のタイムの増減が出て来る。之は從來の各地の競技の結果により明かな事である。その原因であるコースの難易は、主として雪質や地形によるものであるが、殊に地形の差異が非常に大きく、之は登降斜面の勾配及びその多少によつて大いに異なるものである。即ち雪質をネグレクトして考へれば登降斜面の状態のタイムを支配する事が大きくて、平地のスピードは雪質の同様なる場合は殆んど常に一定したタイムを示して居るに相違ない。具體的に云へば一五軒は一時間十分以内で走つた時も一時間二十分以

上を要した時も（同一ランナの異なるコースにて）その人は恐らく平地だけは兩コース共に殆ど同一のスピードで走つて居るわけである。

以上の記述によつて平地滑走のスピードの記録を舉げる事は割合に根據のある事であると思ふ。平地スピードは一籽につき何分がレコードであると稱する場合は、そのタイムは地形云々から全く解放せられたレコードであり、唯雪質が僅かに之に影響を及ぼして居るに過ぎない。

平地滑走競走は我國では餘り行はれた事が無かつたが、之に近いレースが屢々行はれて居た。即ち一九二〇年に小樽札幌間の驛傳競走をやつたのが我國最初のものである。之は全コース約三〇籽のうち、約三分の二近くは平地コースであつた。それから純粹の平地滑走レースは一度高田郊外で開かれた事がある。一九二四年早大スキー部の主催によるものであつた。

その頃の平地コースのスピードを顧るに、甚だ遅いものであつた。札幌リレーに優勝した小樽商業の精鋭さへも平地のスピードは一籽平均七分内外であつた。恐らく極く短距離一籽位を走つても六分内外の時間を要した事と思ふ。

然るに現在は猛烈な進歩を示し、五分以内に締め得らるゝに至り、短距離の時は殆ど四分に近づかんとして居る。

純粹の平地滑走レースと稱せられたのは早大主催で一九二四年高田に於て一度行はれた事を記憶して居るが、此の時も雪質は随分不良であつたらしいが、その記録も甚だ振はざる程度のものであつた。はつきり記憶しては居ないけれども一籽につき六分乃至七分を要して居たらしかつた。

之等の記録が現在の各選手のスピードに比すると、實に雲泥の差を來した事を知るべく、凡そ現在の五分以内の記録（レースの際のもの）の約五割増しのタイムを要して走つて居た事を知るのである。

次に私の平地滑走練習の經驗を少し述べたいと思ふ。平地練習をやり始めた一九二三年（第二回全日本選手權大會當時）の練習成績は一籽平地のスピードが五分三秒であつた。それで當時の選手權大會の北海道豫選に入選する事が出来たのであるが、當時の全國大會優勝者であつた上野、秋野君等とは幸ひにして平地では相當に好い勝負をなす事が出来た。翌年も平地滑走は随分よく練習し、殊に三段滑走を始めて練習成績も前年より少しく向上する事が出来た。一昨年即ち一九二五年には平地及び降りスピードが少し



原間、北陸の田口高田間の驛傳競走にもそのコースが平地を多く含むで居た事より證明せられて居るやうに聞いて居る即ち大體に於て三分の一システムのコースに強いランナーは平地滑走の技倆並びに實力が他に抜んで居る。之はつまり各人の平地滑走のスピードは、そのランナーの三分の一システムに於けるコースのスピードの比較に對して規準となるものであると考へてよいと思ふ。

之の平地スピードとデイスタンスレースのスピードとの關係は日本スキー家では前述のやうであるが、之は更に外國選手にも當てはめて行ける問題であらうか。之は從來の外國の記録又は各地競技に活躍した選手の成績より推して我々の場合程には工合よく平地のスピードと三斜面の平均スピードとが平行して居ないかも知れない。然し今歐洲ランナーと我國ランナーとの實力の相違が平地滑走のスピードに現はれる程度のものであつたり、又は平地スピードの次第に進歩するにつれて三斜面に於ける全スピードも平地スピードの進展に比例して進歩して行く事は、相當の確信を以て認め得られる事であらうと思ふ。今年のホルメンコーレンの五十杆レースでも、全コースを抜群の成績で優勝したキエルボトンや、ヘツゲは、コースの各區間に於ける

平地及び降り斜面の多い斜面で、やはり他の追従を許さぬスピードを示して居た。即ち彼等少くとも入選圏内に入り得た選手は、登り降りに強いと同様に又平地でも凄いスピードを有して居る事が想像せられる。

要するに平地滑走のスピードは略ぼ三分の一システムのコースのスピードの標準になり得るものである。それで平地のスピードの優劣を調べる事は、或程度までデイスタンスレースコースのスピードの優劣を示す事になる。幾分の例外は逃れまいが。

デイスタンスレースの記録はコースに依つて非常に變り易いものであつて、同一ランナーでもコースの難易により一割乃至二割のタイムの増減が出て来る。之は從來の各地の競技の結果により明かな事である。その原因であるコースの難易は、主として雪質や地形によるものであるが、殊に地形の差異が非常に大きく、之は登降斜面の勾配及びその多少によつて大いに異なるものである。即ち雪質をネグレクトして考へれば登降斜面の状態のタイムを支配する事が大きくて、平地のスピードは雪質の同様なる場合は殆んど常に一定したタイムを示して居るに相違ない。具體的に云へば一五杆は一時間十分以内で走つた時も一時間二十分以

上を要した時も（同一ランナの異なるコースにて）その人は恐らく平地だけは兩コース共に殆ど同一のスピードで走つて居るわけである。

以上の記述によつて平地滑走のスピードの記録を舉げる事は割合に根據のある事であると思ふ。平地スピードは一籽につき何分がレコードであると稱する場合は、そのタイムは地形云々から全く解放せられたレコードであり、唯雪質が僅かに之に影響を及ぼして居るに過ぎない。

平地滑走競走は我國では餘り行はれた事が無かつたが、之に近いレースが屢々行はれて居た。即ち一九二〇年に小樽札幌間の驛傳競走をやつたのが我國最初のものである。之は全コース約三〇籽のうち、約三分の二近くは平地コースであつた。それから純粹の平地滑走レースは一度高田郊外で開かれた事がある。一九二四年早大スキー部の主催によるものであつた。

その頃の平地コースのスピードを顧るに、甚だ遅いものであつた。札幌リレーに優勝した小樽商業の精鋭でさへも平地のスピードは一籽平均七分内外であつた。恐らく極く短距離一籽位を走つても六分内外の時間を要した事と思ふ

然るに現在は猛烈な進歩を示し、五分以内に締め得らるゝに至り、短距離の時は殆ど四分に近づかんとして居る。

純粹の平地滑走レースと稱せられたのは早大主催で一九二四年高田に於て一度行はれた事を記憶して居るが、此の時も雪質は随分不良であつたらしいが、その記録も甚だ振はざる程度のものであつた。はつきり記憶しては居ないけれども一籽につき六分乃至七分を要して居たらしかつた。

之等の記録が現在の各選手のスピードに比すると、實に雲泥の差を來した事を知るべく、凡そ現在の五分以内の記録（レースの際のもの）の約五割増しのタイムを要して走つて居た事を知るのである。

次に私の平地滑走練習の經驗を少し述べたいと思ふ。平地練習をやり始めた一九二三年（第二回全日本選手權大會當時）の練習成績は一籽平地のスピードが五分三秒であつた。それで當時の選手權大會の北海道豫選に入選する事が出来たのであるが、當時の全國大會優勝者であつた上野、秋野君等とは幸ひにして平地では相當に好い勝負をなす事が出来た。翌年も平地滑走は随分よく練習し、殊に三段滑走を始めて練習成績も前年より少しく向上する事が出来た。一昨年即ち一九二五年には平地及び降りスピードが少し

他の選手より好かつたので、當時の短距離と長距離の北海道選手権を獲得した。従つて平地スピードも随分進歩したと思つて居る。今年もどうか降りま平地が割に早かつたので、豊原の二十五籽に入選する事が出来た。そして此の選手権大會に出場するやうになつてから四ヶ年の、平地の

スピードの進歩のしかたは略ぼ日本に於ける平地滑走の進歩と平行して居るやうに感ぜられる。勿論スキー具、技術の進歩があつたのであるから、素裸かにした實力の相違は餘り無いかも知れないが、自分のスピードの進歩の跡を見ればやはり何等かの點で幾分の進歩があつたに相違ない。恐らく他の選手諸君でも第一回の頃から續けて良成績を収めて居る人は、同様の進歩を辿られた事と思ふ。

今厚がましく私のその年によるベストレコードを擧げて見たい。使用したスキーはその年に私が競走に使用したスキー或は之に似たものである。タイムは一籽を全力で走つたスピードを示す。

年	スキー年齢	年齢	タイム	技	術
一九二三年	四年目	二〇歳	五分二五秒	(躍進滑走)	
一九二四年	五年目	二二歳	五分〇七秒	(三段滑走)	

一九二五年 六年目 二二歳 四分四一秒 (三段滑走にその變則的技術)  
 一九二六年 七年目 二三歳 四分一八秒 (を加味する)  
 之はレースに使用したスキーで走つたのであるが、平地用のスキーを用ふるならもつと好いタイムが出ると思つて居る。容易に三分臺に縮める事が出来よう。

然し今年の四分近くの平地滑走のタイムは一籽だけ走つた時のスピードであるが、長距離を走る時には到底このスピードを繼續する事が出来ない。恐らくは一籽につき二〇秒以上の割増しがあると思ふ。即ち平地は一籽平均四分四〇秒位になる。

此の現在の我々の平地スピードは何の位まで將來進歩せしめ得るかに就いて、精しい推測を爲す事は私には不可能である。又残念ながら世界選手の平地スピードを私は知らない。レコードの進歩に就いては、スキー修得年齢、スキー家の年齢、使用スキー具等が大いなる影響を與へるものであるが、私のやうな外國へ行けばまだ殆ど少年組ランナー扱ひにされる若年輩では、まだく體力の方面だけでも可成レコードを縮めなければならぬらしい。今後幸ひにして従來の練習を續ける事が出来れば、最高三〇秒以上は短縮する事が出来そうにも思はれる。若し十五、六籽レース

中で一籽平均四分位で走る事が出来るやうになつたら、大變うれしいだらうと思つて居る。若し現在の平地スピード（競走中）が一籽四分三〇秒であるとして、十籽五十分で走れるものとしたならば、次にそのまゝ一籽平地四分のスピードが一籽クロツスカントリーレース中に出す事が出来れば十籽は四十八分位で走れる事になる。多年デイスタンスレーサーが渴仰して居た四十分臺の十籽タイムに見ゆる事が出来るのである。

次に私の練習結果より割出して考へて見るに、極くレコード本位に選ばれたコースならば、相當の標高差（十籽につき百米以上）を有する三分の一システムのコースでも現在の我國選手は十籽四十八分臺タイムを出す事は可能である。それでかゝるコースに於けるタイムを考へるならば、平地スピードが今より三〇秒縮められた時には四十八分のタイムは四十七分以内になる。卸ち益々洗練せられたタイムに接近するわけである。猶平地スピードの進展に伴ひ他の降り登りスピードも少しく進歩するものであるとしたならば、十籽タイム四十五分の聲を聞く事も難事ではない。十籽四十五分……實に今の我々に取つては切に希望して止まざるタイムである。早く何人かの手にて此のレコード

を獲得したいと思ふと同時に、その仕事に對し基礎的モメントは絶対價値を有する平地滑走スピードの進歩に待つべきものであらうと想像する次第である。恐らくそれは確かの事であらう。第十五シーズン終えて間もない今、私は来るべきシーズンにはそう信じて平地スピードの向上に心を碎きたいと思つて居る。

そして更に我等のレベルより數段も體力優秀なランナーの現はれた時には、進歩した技術と絶倫の體力と相俟つて所謂世界記録なるものに益々肉迫するにちがひない。恐らく三分の一システムコース全體を平均四分近くのタイムで走るランナーが現はれて、世界の覇者たるノールウエイやフィンランドの選手と堂々戦ふ事が出来るやうになるであらう。

現在の我々のデイスタンスレースのスピードは長距離では、凡そ一籽平均五分二〇秒である。それで二十五籽が約二時間十五分位のタイムになる。此のタイムの内容は如何と云ふに、少くとも私のスピードは次の如くにして現はれて居ると思つて居る。即ちに二十五籽以上の疾走中は平地は約四分五十秒位のスピードで走り、登りは大略一籽につ



シュミツド、セブ君のジャンプと競走スタイル

意氣の衰へるであらう日の来るまで力行して見たいと思ひます。時計の針の休まざる刻みの貌に似て。

よしゼンマイが切れ、針の折るゝ日があれば繕ひ人に頼み繕ふて、刻みを新にして、隋性の力や、廢滅の光を更新の光に代へて、覺め出づる氣持で力行して行きたいと思ひます。

去る日の會員總會で、私共は此雜誌を再び第六年目の新しい氣持になつて繼續刊行することに致しました。そして卒業期に當つて甚だお氣の毒ではあるか小野修君に會計を編輯の方は山口健兒君に持ち前を分けて貰つて其處に及ばず乍ら私が會務諸般を受け持つて仕事を繼續することになりました。

私共は出来るだけ會のことを大過なき様致したいと考へて居ります。

然し私共の氣持だけは斯様に張り切つて居りまして、何しろ身は皆學生であり、従つて學務の餘暇に事を進め様、爲さうと云ふのですから、努めてやつても溢り勝になる嫌ひのあることは今更申すまでもありません。たゞ私共の意中を了せられて、幸ひに會員並びに大方の諸兄の御後援と御指導を仰ぎたいと存するものであります。

### 本誌殘本希望の方へ

殘本を近頃非常に御申越下さるゝ方がございます故御希望せらるゝ方の爲に念の爲殘本の有無左にお知らせ致します。

初號より二一號まで	絶	版
二二號より三一號まで	殘部些少	
三二號より三四號まで及三六號	絶	版
三五號及三七號より四九號まで	殘部謹少	
五〇號より六〇號まで(第五年目)	殘部極少	

### 山とスキーの會

彙報抄録

H. U. S. V. 新着圖書

Wunder des Schneeschlufs' II teil

'Sprung & Langlauf' von Dr. Brander, Schneeberger.

Pa° Skidor 1926.

Norsk-Engelsk ORDBOG.

Forskolorna och Skididrotten, August Dalors.

○ Seth Vesa HILHTO.

Holmenkol Rennene 1926.

○ SUUSATAMINE.

Skididrotten; Skolorna, Carl Nordenson.

Skididrotten och Skolan, 同上

Svensk Idrott 1925.

以上木原均氏より寄贈になり、内○印のものは森田氏より木原氏に寄贈されしものを更に贈られたものです。

畏くも高松宮殿下の御臺覽を仰ぎたる

北大スキー部のスキー参考品展覧會

北大スキー部にては去る五月中旬の北海道帝國大學創基五拾週年紀念式施行に當り、その紀念奉祝の意味に於て五月十五日より十七日に到る向ふ三日間スキー参考品を學校内學生集會所に於て陳列公開したり。

而して公開に先ち、畏くも高松宮殿下には會場に成らせられ大野部長の御説明にて親しく御台覽遊ばされ、御感興深く殊の外御満足の趣拜せられたり。

尙スキー部よりノールウエー式スキー一式、兩杖、スキー靴一足、スキー部創立十五週年紀念給葉書一組、スキー部モノグラム、雜誌山とスキー第五年目全冊を献上の趣、台覽の際大野部長より奏請せられしところ、御快諾あらせられたり。

北  
大  
ス  
キ  
ー  
部

## 紀念事業

北大スキー部では来るべきシーズンが丁度スキー部創立十五週年に當るので紀念事業として次の四つの計畫を着々進行して居ります。

手稻山中腹にスウイス風のヒュッテエ建設

手稻山頂に四方展望臺建設

紀念出版刊行及び紀念繪葉書、アルバム作成

紀念スキー參考品展覽會（今秋札幌にて開催）

是等の計畫は冬までに凡べて實行完成の豫定であります。尙紀念出版、紀念繪葉書は部員外の方にも頒布するものがあります。

## 紀念品贈呈

先に本會に於て第五週年を迎ふるに當り本誌初號より引續き購讀の榮を賜つて居ります方々に紀念品を差し上げる旨廣告致しましたが、甚だ御粗末なもので恐縮ですが目下註文中で出來次第御贈り致すに相成りました。ついでに當方の調査名簿を參照致し度いと存じます故、念の爲初號より引續き御購讀の方がございましたらお知らせ下さい。

### 山とスキーの會



### 寄贈圖書

ペデスツリアン

神戸徒歩會より



## ゴシツプ

○懐しい雪が次第に姿を消して行くそよ吹く風に春を夢みて居る間に、もう梅雨の嫌な時期になつた。ゆつくり部屋の中で去りし冬の間の種々の出来事を追想し、又來る夏山への新しい計畫を立てるに良い時期である。

又來る冬のことに関心を進むることは早過ぎる様であるが、ボンヤリして居ると初夏になる、酷暑がやつて來る。

暑い／＼で過ぎて終ふと秋が押寄せてくるであらう。

秋の聲を聞いてからの來る冬の仕度では少し遅い。周到な準備は今の内に始めねば嘘であらう。

○今度の號は成るだけ早く出したいと思つて居ましたが何しろ春休みが皆にたゞつてとう／＼遅れました。

山の方の原稿が締切り期日までに無かつたのでさう／＼今度の號には山の方の原稿が少しもありませんでした。まるでスキーテクニツクの方面ばかりになつた傾向がありますが、編者の方ではさう編よらす積りではないので今迄通

り山の方とスキーテクニツクの方の記事を平行させてやつて行きたい希望ですから何卒御含み下さい。せめて此號では松方さんのお便り中の山の話でアチラの山登りに行つた氣になつて頂きたいと思ひます。來月號からは此春休みの紀行や、五月になつてからの北海道の山の紀行を掲載致します。小さい紀行でも研究でも日記でも宜しうございますから、なるだけ多くの方からの御寄稿を御願ひ致します。僅かの歩み、小さい記録でも知らない人にとつては値千金の賜物となり得ると思ひます。

○又今度の表紙は松方さんから送つて頂きました繪葉書を參考にして私供の爲によく骨を折つて下さる近藤進君に圖案して頂きました。此處で改めて御禮申します。

○今度の號には特に札幌に來られてから非常にスキーに熱心になられた柳先生がわざわざ私供の面倒臭いお願ひをも心よくお受け下されて、吾々スキーランナアが最もけがを起し易い(外國でもさうらしいが)所謂シーブントについて御寄稿して下さいました。そして誌面を飾ることが出來たことを諸兄にお知らせして先生に有難く御禮申します

○挿入寫眞について、氷ノ山の寫眞は關西でも四月になつて未だこれだけのスキー登山が出来ることを裏書きして居る態の寫眞でございますが、都にあつて、春三月の櫻の香に未練も残さず彌生のアデヤカサをも棄て、尚スキーの興趣に引かれて冬の名残りを味はんとする關西の熱烈なスキーランナーには敬服の外ありません。兎に角本邦關西の地に四月に入つても尙此の如きスキー登山の出来得る山岳のあることは大へん嬉しく感ずるところであります。わざわざ、此立派な寫眞を御贈り下された小竹氏に深く御禮申します。

ルードの寫眞、是は何時もうら私達が御指導に預つて居ります大原さんからわざわざ、先日送つて頂いたものであります。ルード君は未だ十八才といふ若齡の可愛い少年だ相です。このスタイルを見ては私供は思はず飛躍のクライマックスと云ふ様な感じを抱きます。とても旨い相でありまして所謂ボンナ式の飛び方で將來はタムス君を向ふに廻して世界の讃辭を蒐むるであらうとは木原さんのお言葉であります。何せよタムス、ボンナ、ルード、アムンゼンと數多くの天才的ジャムバアを持つノールウエーは恵まれて居ると思ひます。此寫眞掲載を木原さんにお知らせする手紙

の行かぬ前に此雜誌を先に御覽になるでせふ。御斷りの手紙の遅れるであらうことを此誌上からお詫び致します。

「日本の誰が此ルード選手と一九二八年スウイスの國際スキージャムプ大會で一共に顔合せをするであらう」とは木原さんの最近のお便りでありました。(君生)



## 「山とスキーの會」會則

- 一、山とスキーの會は、スキー及び山岳に關する月刊雜誌「山とスキー」を發行する爲に北海道帝國大學文武會スキー部關係者の組織する會である。
- 二、必要に應じ雜誌の發行以外にスキー及び山岳に關する各種の事業を行ふことあり。
- 三、會員は幹事會の推薦により會則を承認し出資金一口以上を引受けたるものに限る。
- 四、出資金額は一口金貳拾圓とする。會員は此範圍内に於ては常任幹事の指定により何時にても拂込をなすべきものである。
- 五、會員退會するときは常任幹事に通告しなければならぬ。しかし既に拂込みし出資金は返還しない。會のため都合あるときは幹事會の決議により除名することがある。除名の際は拂込出資金を返還するも在會中要した各種の費用を精算する。
- 六、會員中會務にたずさはるものを幹事とする。
- 七、幹事の互選により三名の常任幹事を定め常に會務に當ることとす。
- 八、必要に應じ特定の事項に就て委員を置く。
- 九、毎月第二水曜日研究會を開く、常任幹事の必要と認めたるときは臨時之を開くことあり。
- 一〇、協議事項の決定は出席幹事一致の意見による。但し幹事會は幹事總數二分の一以上でなければ成立しない。
- 一一、凡て役員は幹事會に於て定める。
- 一二、毎年一回五月會員の總會を開き、會務の報告をする幹事會に於て必要と認めたる時は臨時之を開く。
- 一三、會員は會務につき幹事に質疑し又は提案する事が出来る。
- 一四、會則の變更、その他重要な事項は總會に於ても常會員三分の二以上の賛否によりて決定する。

轉居廣告

今度私共の會の事務所を左の處に移轉致し五月十日より會務を取扱て居ります。何卒今後共多分の御後援と御指導ををお願い申します。

札幌市北五條西十一丁目二番地

山とスキーの會

◇ 命 用 御 賜 ◇

下殿宮各宮階山・宮川白北・宮田竹

行一御隊山登一キッロンアテナカ  
 状證るへ賜に店弊後朝歸御の

靴は登山用品中最モ大切ナモノ、一デアリマス。  
 岩石氷雪又ハ水中激シク使用シテ而モ何等登山者  
 ニ不安ヲ與ヘヌ丈ケノ物ヲ絶對ニ必要トシマス。  
 此ノ度「ロッキ」登山ニ際シ一行ノ使用シタ靴ハ  
 山崎君ノ作製ニカ、ルモノデ殆ンド完全ニ近イ好  
 成績ヲ舉ゲテ井マス。形ニ於テ縫ヒ方ニ於テ靴ノ  
 打方ニ於テ其他防水ノ點ヤ強サノ點ニ於テ凡テ平  
 均シタ立派ナ出來榮デシタ。出發前ニ最モ恐レタ  
 コトハ靴ノ不完全ナル場合ヲ考ヘタコトデシタ。  
 併シ此ノ不安ナク登山ヲ出來タコトハ同君ノ賜物  
 ト感謝シ且ツ今後モ益々御奮勵英國ノ「カーター」  
 ヤ瑞西ノ「アマハー」ニ優ルヤウナ物ヲ作製セラレ  
 ルヤウニ期待シテ止ミマセン。

大正十四年十月二十一日

山崎靴店殿

早三波岡橋榎  
 川田多部本  
 種幸野長靜有  
 三夫信量一恒

靴一キスと靴山登

—呈贈グロタカ—

用御部岳山應慶

店靴崎山

角町横大谷四京東

スキー並附屬品

製作販賣

••(呈カタログ)••



札幌

小谷運動具店

電話 一五六八番  
振替 七九六四番



優秀なるレコードは  
優秀なるスキーに依る!!

ス界第一  
大量製産

ツバメ印スキー

全  
國  
有  
名  
店  
に  
有  
り

製造元

札幌市

中野商店

スキー部

GET SUPERFINE SKEES.  
 AND MAKE AN  
 EXCELLENT  
 RECORD



東京市本郷区四丁目  
 優秀ナルスキー用具

大山屋  
 小樽  
 梅屋運動具店



第二回畜産工藝博覽會ニ於テ  
一等賞金牌受領



# 登山靴とスキ一靴

東京市本郷區四丁目角

## 太田屋靴店

電話小石川四七二番

振替東京六一七番

◆山とスキーの會は北海道帝國大學文武會スキー部の有志

が、此の雜誌を發行する爲に作つてゐる會です。

◆スキーを研究せられる人、登山に興味を持たれる方が一人でも多くお読み下さることをお願いいたします。

◆山岳及びスキーに關して何なりとも御寄稿下されることを願ひます又印畫の御惠送を切望致します。原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一字下げること。

◆記事中の數量は全て、C・G・S系によられん事を望みます。

◆雜誌代金に就て一應下記の諸項を御承知下さい。

◆本會より發する電信略號を「ヤマ」として居ります。

### 定 價 金參拾錢

\*前金御申込が、現金でなければお渡しいたしません。

\*御送金はなるべく振替にてお願い致します。

\*六冊分前金拂込の方には送料を頂きます。

\*前金の切れた時には最後の分の包装にその旨記します。次の御送金あるまで配本を見合せます。

\*本誌は營利的の刊行物ではありません。紹介、縁故の有無にかゝらず雜誌の代價は頂きます。

大正十五年五月廿八日印刷

大正十五年六月一日發行

(毎月一回一日發行)

編輯者 相 川 正 義

印刷兼 發行者 廣 田 戸 七 郎

札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

札幌市北六條西六丁目

發行所 山とスキーの會

振替口座水樽八四九五番

La Gazeto  
 de la  
 Monta kaj Skia Klubo  
 No. 61. Julio 1926. Sapporo. Japanujo.

TOKYO, JAPAN.  
**MIMATSU & CO., INC.**  
 The Leading Winter & Spring Sports

.... 美満津の運動具！ ....



DIE OLYMPISCHEN SPIELE  
 COPYRIGHT-AUG. 1925-THE-MIMATSU&CO. INC

合名 美満津運動具店 東京本郷赤門前  
 会社 電話小石川 845-2071番

大正十三年七月二十七日第三種郵便物認可  
 大正十五年五月廿八日印刷  
 大正十五年六月一日發行

山スキ一 第六十一號

定價參拾錢

。カタログ進呈。